

第14回 宮城県東日本大震災アーカイブス連絡会議 11月14日15時～

参加者：東松島市、20cアーカイブ、せんだいメディアテーク、凸版、宮城観光復興、東北アジア研究所、サイバー大学（松本）、こころの相談室、事務局

告知：

*アーカイブシンポジウム（2015年1月11日）のプログラム詳細など連絡会議メンバーからの報告参加あり（駐車場有り）

* 東北メディアラボ研究会 2014年12月13日（土）来月の連絡会議と合同。
（終了後忘年会へ）

* 国連防災会議（内定決定）主な会場は東北大川内キャンパス（700ほどのイベントあり）例）アーカイブとメモリアル 東松島市映像流す

議題：利活用について

発表【20世紀アーカイブ仙台】

活動事例

震災アーカイブ拠点構想と利活用

①仙台市震災復興メモリアル検討委員会での取り組みに参加

詳細 http://www.city.sendai.jp/fuzoku/1209603_2699.html

<仙台市による東日本大震災の経験を未来へつなぐための、5つの取り組み>

基本理念：東日本大震災の経験を未来につなげていく

被害を受けた仙台固有の財産を見つめ直し、引き継いで行く

1. 東部地域におけるみどりの再生

2. 貞山運河の利活用

震災の記憶を継承する

3. モニュメント整備・遺構による記憶継承

4. 想いを含めたアーカイブの整備と利活用

明日に向かう力とする

5. 文化・芸術による想いの継承と心の復興

<中心部・沿岸部、2拠点での展開>

中心部と沿岸部と連携して拠点を展開

中心部：収集、編集、発信

沿岸部：知り学ぶ拠点（東西線終点駅 荒井駅）3.11 フィールドワークなど

http://www.city.sendai.jp/fuzoku/_icsFiles/afieldfile/2014/07/24/08_shiryo6.pdf

アーカイブ機能例

沿岸部

1. 写真、映像、遺物、パネル等の展示
2. 回遊する為の仕組み（ツアーなど）
3. 人の想いも含めた伝え方に繋がる活動を実施する拠点機能

中心部

1. 写真、映像、遺物、パネル等の展示
2. 資料（震災関係公文書含む）の収集・閲覧
3. 丘陵部の被害状況の展示
4. 東北全体の展示（情報発信）
5. 自治体の災害対応の教訓の発信
6. 多言語での発信
7. Web 上での発信
8. オープンな環境における市民参加型の語る場

これらの構想をうけ、20世紀アーカイブ理念（1～6）に添った活動を実行

1. 観る撮る
2. 集める
3. 語る場
4. 聞く
5. 編集する
6. 観せる

具体的な取り組み

- ① 3. 11 オモイデツアー（町の文化に触れる、住民と会話）町の特徴を感じる
- ② 60秒で伝える 3.11 ムービー（スマートフォンで1分のスライドショーを作る）アプリを使用。
- ③ オモイデピース（震災前後定点撮影）と派生する物語の収集。写真のキャプションはそこからの会話。
- ④ 3月12日はじまりのごはん（語る場の提供）震災時の食について語る。語りの切っ掛けづくり
- ⑤ ケータイで撮った 3.11 はありますか？（語る場の提供）
- ⑥ 3.11 キヲクのキロク（14回開催） 公開サロン 撮った写真について語る

① は沿岸部

②～⑥は中心部で開催する

<まとめ>

地域アーカイブと震災アーカイブの境界線は？→ ないのでは。。。

震災アーカイブとは私たち地域市民が取り組むべき事なのではないか。（土地利用の観点からも地域と密着しているので（佐藤）

最終的には震災アーカイブは地域アーカイブとなる。

<過去→3.11→現在→未来>を繋ぐかたちとして可能な地域アーカイブ。

地域の記憶を次世代へ

具体例

定点撮影（昭和時代と今）の意味、若い世代に、つながりを提供できる

定点撮影（震災後と今）復興状況の確認

定点撮影（震災前と今）変化を確認

など 目的によって、比べる時代が違う

写真から語られる話を共有、保存する事で世代を超えて後世へ

震災アーカイブ、震災前・後アーカイブ、地域アーカイブの連動が可能になる

展示物<はじまりのごはん>ツアー

今後新潟に巡業ツアー決定

Post-it の管理法→デジタル化??

Q&A・discussion・コメント

* 苦労した点は? 特になかったのですが、生活に密着した食べ物に極力限定し語って頂いた。

* どう編集したのか。(量的) スペースで決定。内容均等に展示した。

* 空間情報をスキップした、普遍的な食事シーンは更に語りを促す事が出来ているのでは。写真が共有、想起のきっかけとなる。

* 語りの装置としての写真、人(地元人)であるのだが。。

話す相手の工夫はいかに? ある程度歴史を知っている人、若い人(知らない人) 分からない相手の方が語りだすのでは。

(3.11 キヲクのキオクより)

* 語りと記憶のプロジェクト (東北工業大・東北大坂田) 語りのデザインをいかに。帰属意識同士、或は、他者へ向けた語り、多様な語りの存在。(カード記入式)

* 「はじまりのごはん」→現在の地域としてのアーカイブ(復興中)の形である

* days before 京都大(前の話は?) 震災前の事を聞くことの大事さ
どのようにすれば、震災前の記憶を引き出す事が出来るのか?

クローズドされたアーカイブではなく、市民が参加、使用できるアーカイブであるべき。市民レベルの **Open** であって、気軽に書き残せるように。

* **Open** であるアーカイブはいつかパッケージ化していかなければならない。

(乾燥ワカメのように。。。) 今は生もの。デジタルの技術を駆使して。。

* デジタル化しても取り出すことができないのでは。利活用の再設計は必要。(目的志向型)

* 見せ方の工夫やシステムの可能性を探る。

* 将来へのプレゼン(20世紀) 多様なアーカイブ手法があってよいのでは。

次回: 12月東北メディアラボの研究会

1月9日(金) 15:00~ 想起と記憶 展示ツアー

2月6日(金) 国連防災会議準備

3月11日 国連防災会議